

①皆さん、おはようございます。

今日の終業式の式辞は、パワーポイントの画面を共有し、プレゼンしたいと思います。

②これが、本日の終業式の式辞の内容です。

### 式辞の内容

- 1 2学期の振り返り
- 2 「第3の制服」の導入について
- 3 田中正造、  
「天皇への直訴」120周年

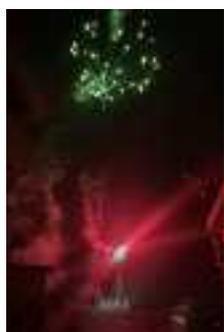
③さて、2学期も、多くの生徒が校長室に来てくれました。また、皆さんが活動している場所で、今、チャレンジしていることの話が直接聞くことが出来ました。部活動などを含めると、中学生は延べ120名、高校生は延べ185名と、直接お話しすることが出来ました。それらは学校のHPの「校長室便り」でも紹介しています。



そこでは、皆さん一人一人がチャレンジしている姿を見ることが出来ました。その中で、個人的に、これは凄いと思ったものをいくつか紹介したいと思います。

④まずは、旭城祭の後夜祭終了後の「打ち上げ花火」です。中学生は残念ながら見ることはできませんでしたので、動画で紹介します。(動画再生)

①旭城祭の後夜祭終了後の  
「花火の打ち上げ」



「打ち上げ花火」は、旭城祭実行委員や生徒会役員から、高校3年生のためにも、花火を打ち上げ、高校最後の旭城祭の思い出にしてもらおう、という企画でした。佐野高校120年の歴史の中で、おそらく初めての「花火の打ち上げ」が実現しました。これは、大きなチャレンジだったと思います。

⑤次は、生徒が声を上げて実現した「多様性に配慮した第3の制服の導入」です。この具体的な内容については、この後、別に説明しますが、下野新聞の一面を飾るほどの大きなインパクトがありました。これも、生徒会、そして有志生徒による、大きなチャレンジでした。

## ②多様に配慮した「第3の制服」の導入



⑥そして、3つ目は、「佐野市内高校生災害復興ボランティアネットワーク」略してSVNを立ち上げたことを上げたいと思います。ボランティアを必要としている地域社会と、ボランティア活動で地域に貢献したいという高校生の橋渡しをする役割を果たすネットワークを作ってくれました。

## ③佐野市内高校生災害復興ボランティアネットワーク(SVN)の立ち上げ



この構想は、前生徒会長の猪瀬君が生徒会長の選挙公約に掲げたものですが、佐野市と連携して準備を重ね、ついに実現しました。猪瀬君は、この実現のために、何度も市役所に通い、市民ボランティアの関係者を巻き込み、佐野市を動かしました。これは、誰にでもできることではなく、熱意と使命感に裏打ちされた素晴らしいチャレンジだと思います。

⑦他にも、有志生徒による「フードドライブ」や佐野の子どもたちのための「ふゆまつり」の開催、科学の甲子園ジュニア全国大会出場などがありました。

また、中2の「服のチカラプロジェクト」や「コーポレートアクセス」、さらに、中3のシンカゼミや高1、高2、SGクラブ等の課題研究など、本校では、生徒が主体となったチャレンジが、いたるところで見られるようになってきました。



本校は今、大きく変わってきている、と感じています。皆さん一人一人が、何らかのチャレンジをしてきたことの積み重ねだと思います。

「学校を変える」ということは、「社会を変える」ということでもあります。皆さんは、自信を持って、チャレンジし続けて欲しいと思います。

チャレンジは、成功することが目的ではありません。それ自体に価値があり、皆さんを変えてくれる原動力です。学校が果たす役割は、皆さんのチャレンジを応援することだと思っています。

⑧ここで、こうしたチャレンジの一つの成果でもある、「第3の制服」の導入について、皆さんに説明したいと思います。

## 2. 「第3の制服」の導入について



第3の制服の検討は、9月21日、生徒会長の呼びかけに応じて集まった中高の有志生徒36名によって、開始されました。現在の制服をデザインした制服業者にも来てもらい、デザインした際のコンセプトやそもそも制服にはどんな意味があるか、などのお話を伺いました。また、現在の制服を着ることに大きな苦痛を感じている生徒もいることから、多様性に配慮しつつ、本校の制服という統一感をどのように表すことができるか、という点に重点を置いて、議論を進めてきました。制服業者にも何度も来てもらい、10回以上の検討を重ね、ようやく、12月2日に有志生徒に、第三の制服案を公開しました。

## 2. 「第3の制服」の導入について



⑨この写真は、その日に撮影したものです。右の2人が、第3の制服です。さらに大きくしたのがこの写真です。スーツタイプで、ネクタイが特長です。

## 2.「第3の制服」の導入について

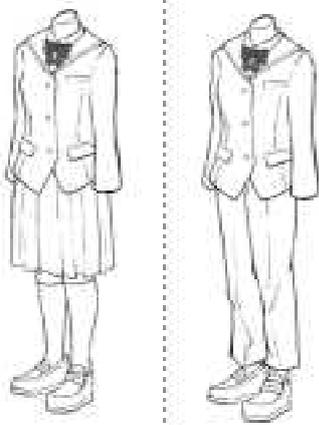


その後、生徒と学校で、制服の運用面などについて、さらに検討し、学校としての結論に達しました。

⑩それでは、来年度からの本校の制服のラインナップについて、説明します。

この表では、制服の特徴をイラストで表しています。イラストは美術部の塩原さんが描いてくれました。

## 2.「第3の制服」の導入について

I型	II型	III型 α	III型 β
			
学ラン	セーラージャケット	スーツジャケット (直線型)	スーツジャケット (曲線型)

⑪ これまでは、男子の制服は学ラン、女子の制服はセーラージャケット、と指定してきましたが、これからは、性別で指定するのではなく、Ⅰ型、Ⅱ型、Ⅲ型α、Ⅲ型β、という4つの型から自由に選択できるようになります。

Ⅰ型とⅡ型は、従来の制服ですが、Ⅲ型のスーツジャケットが、いわゆる第3の制服です。体型によって、直線型と曲線型を選ぶことができます。

⑫ 次の表は、制服のアイテムの選択肢を示しています。

種類	アイテム	Ⅰ型	Ⅱ型	Ⅲ型α	Ⅲ型β
上着 リボン ネクタイ	学ラン	◎			
	セーラージャケット		◎		
	スーツジャケット(直線型)			◎	
	スーツジャケット(曲線型)				◎
	リボン		◎		
	ネクタイ			◎	◎
冬下	冬スラックス	◎	○1	○1	○1
	冬スカート		○1	○1	○1
夏下	夏スラックス	◎	○2	○2	○2
	夏スカート		○2	○2	○2
その他	長袖Yシャツ(裾短)	△		△	△
	半袖Yシャツ(裾短)	△		△	△
	長袖セーラー(夏期)		△	△	△
	半袖セーラー(夏期)		△	△	△
	夏リボン		長袖・半袖セーラーには夏リボンを着用		

◎は必ず購入、○は選択購入、両方買うこともできます。△は希望者のみを表しています。

本校の制服としての統一感、あるいは、これが本校の制服であることをアピールする、という観点から、Ⅱ型のセーラージャケットではリボン、Ⅲ型のスーツタイプではネクタイ、に統一しました。制服は学校の顔でもありますので、本校の制服によるブランドイメージを明確にしたいと考えました。

皆さんはすでに制服を着用していますので、基本的にはそれを継続すればいいのですが、希望があれば、新たに導入された制服を購入して着用することも可能です。

さらに、来年度からの変更点として、学校指定の男子のシャツについてですが、高額で負担が大きいことから、夏にも男女とも、市販のワイシャツでも着用可としました。なお、着用の際、裾を中に入れることは言うまでもありません。

⑬なお、この話を聞いて、Ⅲ型の制服を購入したい、あるいは、検討したい、という生徒がいましたら、明日から冬休みになってしまいますので、本日、帰るまでに、職員室の中條先生のところで、資料をもらってください。現時点で、どのくらいのニーズがあるのか、全くわかりませんので、供給量を把握するために、ぜひ、協力をお願いします。

- Ⅲ型の制服を購入したい生徒  
検討したい生徒



本日中に、職員室の**中條先生**まで  
(職員玄関前に「**実物**」を展示します。)

⑭生徒から始まったチャレンジが、学校全体を巻き込み、とうとうここまできました。皆さんの「探究力」や「人間力」を基盤としたチャレンジ精神のたまものであると思っています。佐高120年の歴史に新たな1ページが加わったことは、間違いありません。



⑮最後に、佐高120周年に関連する話をしたいと思います。

### 3. 田中正造、直訴120周年



実は、120周年は佐高だけではなく、郷土の偉人「田中正造」が天皇に直訴を決行してから、ちょうど120年目でもあります。つまり、田中正造が天皇に直訴した年に、佐野高校が開校しました。

⑯その直訴状の実物が、佐野市郷土博物館に所蔵されており、7年ぶりに実物が展示されている、という話を聞いたので、実際に見に行ってきました。



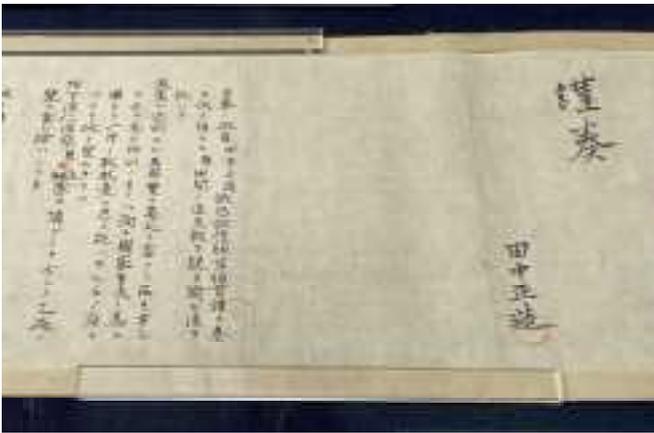
田中正造の天皇への直訴(1901年12月10日) ~ 野州日報の挿絵より

⑰附属中に講話に来てくださった茂木館長が案内してくれました。茂木館長から、田中正造の直訴にまつわる真相について、ご教示いただきました。

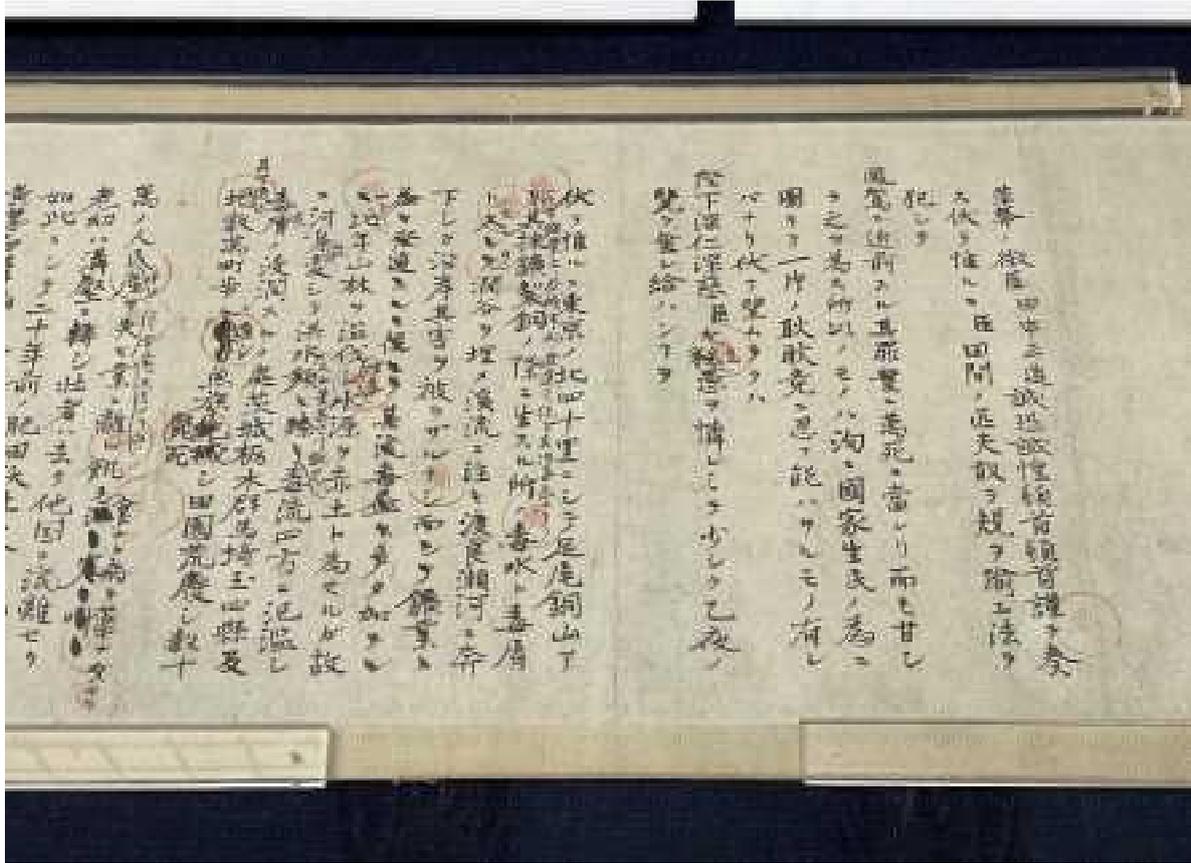


田中正造の直訴状(実物展示)

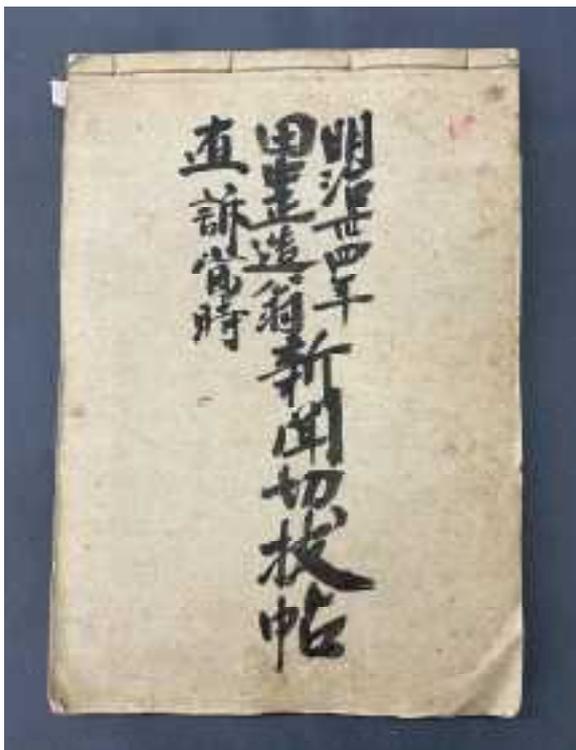
⑱これが直訴状です。田中正造の名前が入っています。



⑲直訴状には、赤いハンコがたくさん押されています。これは、天皇に伝える際、間違ったことやいいかげんなことは書けない、ということで、直訴の日の朝まで、修正をしていたそうです。



②佐野市郷土博物館には、当時の膨大な新聞記事が保存されています。



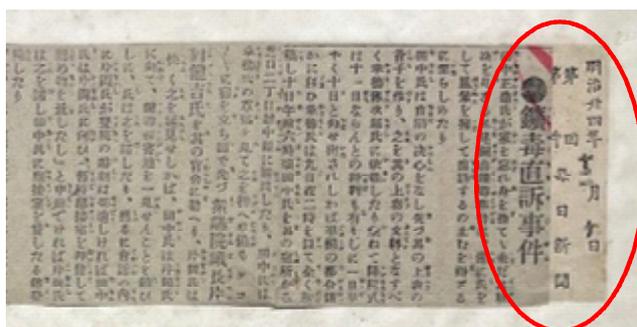
②①このように、きちんと整理されています。



②②全部写真にとらせていただき、並べてみました。直訴を執行した12月10日以降の記事が集められていました。これだけ揃っているところは、他にはないと思います。さすがは、佐野市郷土博物館です。



②③そして、これが、田中正造が天皇への直訴を行った日の号外です。十二月十日という日付が見えます。

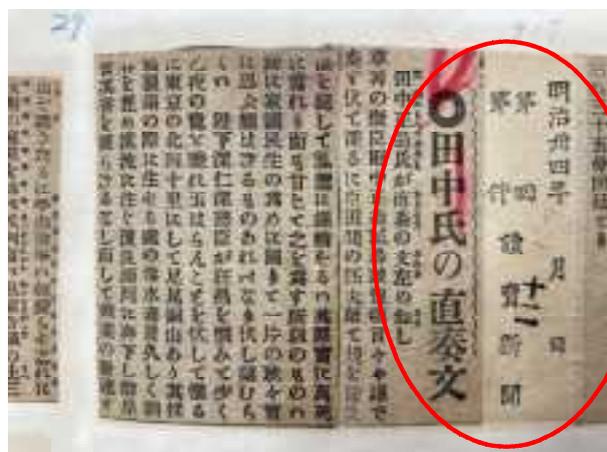


毎日新聞(1901年12月10日)～田中正造の直訴当日

②④直訴が行われた東京では、このように、いち早く、第一報が伝えられました。当時の東京にはたくさんの新聞社があったようです。



②⑤さらに12日になると、全国の新新聞社でも天皇直訴が伝えられ、中には、直訴状全文も掲載されました。これは、読売新聞の記事です。



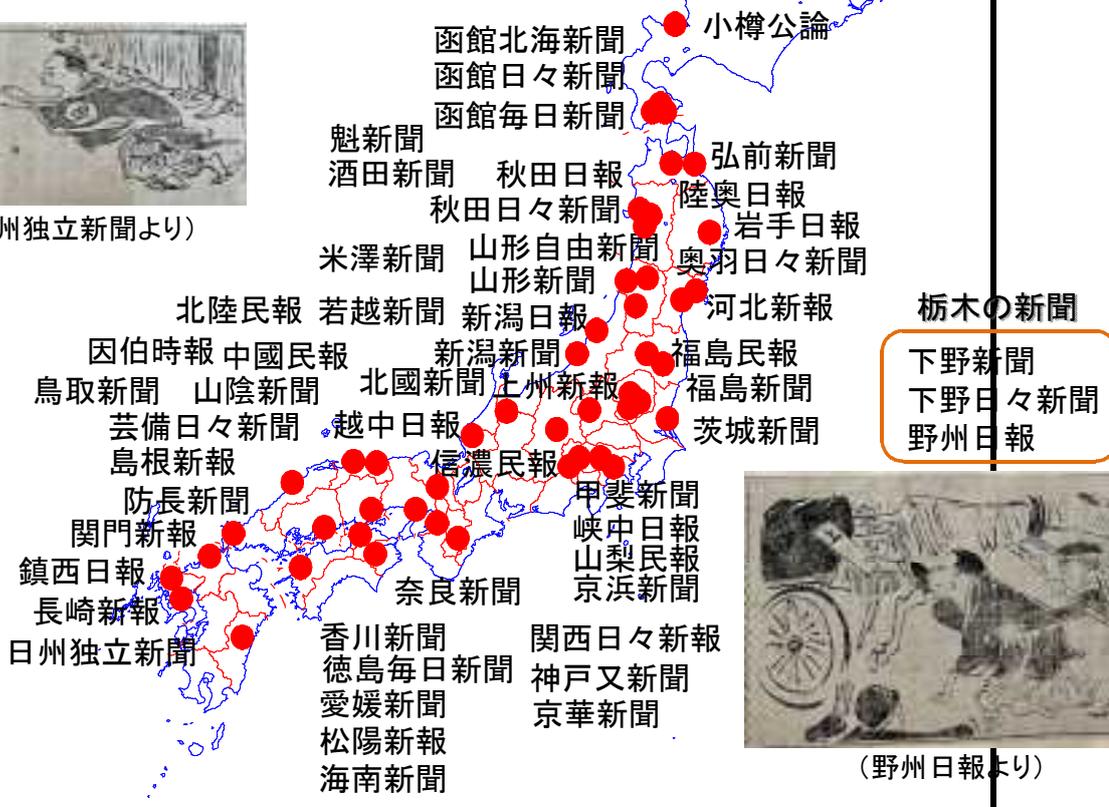
読売新聞(明治34年12月12日)～直奏文の掲載

②⑥これが12日に直訴が伝えられた新聞各紙です。全国に広がっています。ちなみに、当時、栃木県には、地方紙が3つもありました。新聞が唯一の報道機関であったことから、新聞の社会的な役割は、今よりはるかに大きかったと思われます。

## 田中正造の直訴を伝える全国各地の新聞②



(日州独立新聞より)



(野州日報より)

②④ このように、SNS の全くない時代で、通信手段としては郵便か電報しかなかった時代に、2 日後には、全国津々浦々まで、足尾鉍毒の窮状が伝わりました。なぜ、こんなことが可能になったのでしょうか。

②⑤ 田中正造は、かつて、下野新聞の編集長をしていたことから、マスコミの力を知っていました。そこで、マスコミ各社と連携し、直訴状を事前に送っておき、ことが起こったら、直ちに掲載するよう、計画していました。また、明治政府の下では、直訴が罪に問われないと読んでいました。

つまり、田中正造は、論理的・批判的に思考する力や、情報収集力、情勢分析力などを駆使し、周到に計画・準備したうえで、直訴を決行しました。実際には、直訴自体は失敗してしまいましたが、失敗したとしても所期の目的は達成されました。



田中正造の天皇への直訴(1901年12月10日) ~ 野州日報の挿絵より

天皇への直訴（正確には直訴の報道）により、世論は大きく動きました。このことは、後年、鉾毒の対策として、渡良瀬遊水池ができることにつながりました。

本校では、田中正造から学ぶグローバルリーダーの資質・能力として、「情報を発信する力」を掲げてきました。田中正造は、まさに「情報を発信する力」に長けていた、と改めて感じました。

皆さんには、120年周年つながりで、田中正造の天皇への直訴の真相をお話ししましたが、世の中を変えるには、正しい情報の発信、が非常に重要であることが分かってもらえたと思います。

図らずも、本校の「第3の制服」の報道が大きな反響（12月3日付け下野新聞の記事が、HPで200万レビュー、2000件以上のコメント、ヤフーのアク

セスランキング（関東）1位）を呼んだことから、情報の発信が、「社会を変える力」を持ちうることを痛感しました。

②⑥今日は、本校が創立した年に、田中正造の直訴が行われたことに因んで、情報の発信について、皆さんと考えてみました。

### 式辞の内容

- 1 2学期の振り返り
- 2 「第3の制服」の導入について
- 3 田中正造、  
「天皇への直訴」120周年

②⑦さて、いよいよ明日から冬休みです。

最近、再びコロナの感染者が増加傾向にあります。感染対策を普段以上に注意した上で、自由な時間を有効に活用し、幅広い好奇心を持ち、豊かな心を磨けるよう心がけてください。そして3年生はいよいよ大学入学共通テストです。いままでやってきたことを信じ、力を発揮してください。

皆さんの冬休みが有意義なものになることと、健康で、元気に1月7日、全員が始業式を迎えられることを願って、校長からの式辞とします。

\*ここまで読んでくださり、ありがとうございました。

最後に、今回の「第3の制服」導入に関する校長としての考え等を述べたいと思います。

新聞で書かれているように、生徒会役員選挙の際の生徒会長候補の公約がきっかけであることは間違いありませんが、その場ですぐに賛同したわけではありませんでした。影響が大きいことと、そう簡単にはいかないのでは、という私の中の常識による直観でした。

しかし、その生徒が、選挙のために、思い付きで公約を述べたのではないことは分かっていました。以前に、本人から、校長室でこんな話を聞いたことがあったからです（英語の弁論大会の入賞者として話を聞きました。）

「ジェンダーについての理解が進むためには、2つの方法がある。一つは、学校が変わることで、教育によって正しい理解を次の時代を担う生徒に伝えることが出来る。これは長い時間をかけて取り組むべきことである。もう一つは、マスコミによる報道の仕方で、ジェンダーに悩んでいることを特別なこととして伝えるのではなく、当たり前なことと、誰にでもあることと、前向きに伝えることで社会は変わるのでないか。」という内容でした。そのことを思いだしました。彼の主張は、将来のあるべき姿「理想」であり、すぐには難しいのではないか、という私の直観が「現実」とするなら、学校教育は、生徒が「理想」を目指すことを阻む「障壁」となってはいけないのではないかと考えました。

「第3の制服」を導入する方向で、生徒と教員で検討を始めることを職員会議で諮ったところ、多くの先生方に賛同していただき、反対する方はいませんでした。（本校の先生方は、反対意見があれば、必ず、その場で反対します。忖度とかはありません。いつも本気で議論しています。）また、同窓会長やPTA会長からも、即座に力強い賛同のお言葉をいただきました。さらには栃木県教育委員会も相談に乗っていただきました。このような状況の中、生徒の有志のチーム、そして、教員のプロジェクトチーム（主幹教諭、中高の生徒会係、生徒指導係を含む男女7名）が協力し、さらに制服業者の強力なバックアップを経て、短期間で理想的な制服が誕生しました。（有志生徒の熱い思いと本気度に、制服業者は損得を度外視して協力してくれました。）たまたま短期間で出来たのではなく、来年度からの導入に間に合うよう、徹底的にスケジュール管理し、その中で、最大限の効率的な議論を有志生徒と教員のプロジェクトチームが一緒になって行いました。一例を上げると、有志生徒の意見を集約するため、ICTを活用しました。生徒は、フォームスのアンケート機能を活用し、高校生はスマホ、中学生は一人一台のタブレットなどから意見を入力することで、瞬時にとりまとめ、分析しました。スピーディにかつ、適切に、意見が集約されました。ふり返ってみると、生徒たちには、今回決定した「第3の制服」の

ようなデザインイメージを皆、頭の中に持っていて、それを目に見える形にしていく作業だったのではないかと思います。ほとんど「ぶれ」はありませんでした。今回、「第3の制服」を世に出すにあたり、下野新聞が本校の生徒主体の取組を知り、高く評価してくださり、大々的に扱っていただけたことは、大きな後押しになり、生徒たちの達成感や（学校との）信頼関係は、高まりました。

最後に、今回の「第3の制服」導入の目的を述べたいと思います。大きく2つあって、一つは、今、現実に関心を抱えている生徒にとって、学校生活が少しでも楽しくなることです。ジェンダーの悩みは、特に男子でハードルが高いと言われています。誤解を恐れずに言えば、女子が男性的な服装をすることはボーイッシュなどと肯定的に見られることがあります。男子が例えばスカートをはくことには、はるかに高いハードルがあります。いわゆるカミングアウトすることと同じです。そういう悩みを抱えている生徒は、皆さんの身の回りに、（知らないだけで）実は普通にいます。そうした生徒が、本校の第3の制服で、スカートを選択するかどうかは分かりません。しかし、そうした悩みを抱えている生徒が普通にいることを前提に、生徒たちが学校生活を送っている環境は特別視される環境よりも、ずっと過ごしやすいのではないかと思います。そのような、今への対応が目的の一つです。

もう一つの目的は、学校は未来の社会を支える人材を育てる教育機関であるので、ジェンダーについて理解をもった生徒を育てることで、彼らが大人になり、社会の中核を担う時、社会を変えていって欲しいことです。例えば、（適切な例かどうかはわかりませんが、）今の日本は、トイレと言えば、男性用か女性用かしかなかったり、公共施設等を企画設計する際、ジェンダー理解の先進国のように、いずれかの性のためのトイレに入りにくい人のためのトイレも必要だと考えたりすることができる大人になってくれるのではないかと期待しています。（これが正解かどうかはわかりません）これって、生徒会長が言っていたことと同じですね。

今のところ、このようなことを考えています。制服については、百人百様、様々な意見があることも、今回の報道で改めてよくわかりました。しかし、学校が責任を負うべきものは、今いる生徒、そして、これから学ぶであろう生徒が、今後、幸せな人生を歩めるよう、手助けをすることで、そのための「幸せな学校」にしたいと考えています。本校なら、それができると信じています。

\*最後まで読んでいただき、ありがとうございます。（ここまでたどり着かれた方は、そんなに多くはないと思います。）